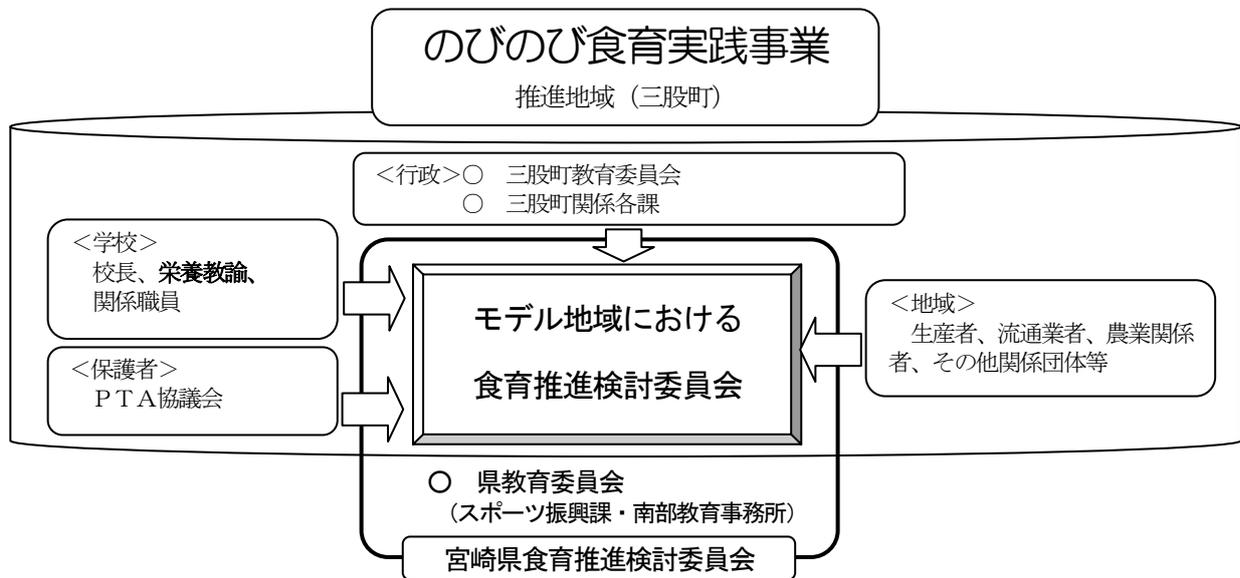


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	宮崎県
推進地域名	三股町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 学校給食への地場産物活用を核とした食育推進体制づくり

#### 1 食育推進検討委員会組織の編成

食育推進検討委員会を組織し、地場産物を活用した取組等に関する協議や打合せ等を行った。

##### (1) 食育推進検討委員会の構成

三股町立小中学校校長、三股小学校栄養教諭、三股中学校学校栄養職員、  
三股町立小中学校食育推進担当者、三股町PTA協議会長、JA都城三股支所職員、  
三股町産業振興課職員、三股町町民保健課職員、三股町教育委員会職員、  
宮崎県教育委員会職員

##### (2) 検討委員会及び実行委員会等の実施状況

- 検討委員会 ～ 1回
- 実行委員会 ～ 5回
- 県教委と町推進委員との打合せ ～ 6回

#### 2 食育推進検討委員会等の実施状況

- 年度前半に、編集委員が一堂に会する会議等の実施が困難な状況であったため、少人数による実務レベルでの会合を随時行い、種々の取組を進めた。
- 児童生徒に、地場産物そのものに対する認識を深めさせたり、地場産物活用のよさを実感させたりするための具体的な取組や、地場産物を盛り込んだ学校給食の活用方法等について協議した。

1 地場産物を活用した料理教室等の実施

「夏休み親子料理教室」や「郷土料理教室」を学校毎に実施した。

- 夏休み親子料理教室 (8/3 三股中、8/4 三股小、8/5 三股西小、8/10 勝岡小、8/19 梶山小)
- 郷土料理教室 (10/7 長田小、12/2 三股中、2/2・2/3・2/4 三股小)  
～ さつまいもを使った郷土料理「がね」作り

↓郷土料理「がね」



2 講演会の実施

学校関係者や保護者を対象に、事業の概要や取組の経過に関する説明、「弁当の日」をテーマとした講演等を内容とした研修会を実施した。

- 三股町のびのび食育実践事業教育講演会
  - ・ 期 日 ～ 平成22年9月2日 (木)
  - ・ 参加者 ～ 約300名
  - ・ 内 容 ～ 三股町のびのび食育実践事業経過報告  
報告者：三股町立三股小学校 栄養教諭 宮崎 珠美  
～ 講演  
演 題：『弁当の日』で何が育つのか (『弁当の日』に託した夢)  
講 師：元香川県綾川町立綾上中学校長 竹下 和男 氏

3 農作業体験の実施

地域の特色を生かし、学校毎に食に関する体験学習を実施した。

- ヒマワリの栽培 (7/6・11/15 三股小)  
～ 収穫して油を絞る、調理に挑戦!
- サツマイモ栽培 (5/14・10/7 長田小、6/9・11/2 三股小)  
～ 収穫して郷土料理「がね」作りに挑戦!
- 稲作 (6/11・9/30 梶山小、6/16・11/2 三股西小、6/25・10/27 勝岡小)  
～ 収穫して餅つきやレポート作成に挑戦!



4 食づくり体験の実施

学校給食の献立を弁当箱に詰めることができるメニューにして、児童生徒が持参した弁当箱に盛り付ける活動や、おにぎり作りを全ての小中学校で一斉に実施するなどの体験活動を行った。

- 「おにぎりを作ろう」  
(6/18, 7/8, 9/17, 10/6～全小中学校一斉実施)
- 「弁当箱につめよう」  
(6/25, 7/14, 9/22, 10/14～全小中学校一斉実施)
- 自分たちで作った梅干しを使ったおにぎり作り  
(10/29 梶山小)
- 餅つき (12/3 三股西小、12/10 勝岡小)



5 実態調査の実施

地場産物活用のための組織の設置状況や体験活動の実施状況等について、実態を調査した。

- 1回目 (6/28) 2回目 (1/17)

## 6 料理レシピの募集

夏季休業中に、全小中学校の児童生徒を対象に、地場産物を活用した料理のレシピの募集を行い、レシピ集を作成した。

- 地場産物を活用した「わが家のじまん料理レシピ集」の作成（7月～8月）

## 7 「弁当の日」の実施

「児童生徒が自分で作る『弁当の日』」を、三股町内全ての小中学校で実施した。

- 1回目（10/22 三股西小、11/5 勝岡小、11/7 三股小・長田小、11/12 梶山小、12/6 宮村小、12/24 三股中）
- 2回目（11/7 三股西小、12/24 長田小、1/17 三股小、1/24 梶山小・宮村小、1/28 勝岡小）



## 8 生産者との交流給食会

地元の生産者を学校に招き、地場産物を使った学校給食を一緒に味わった。

また、当日は、生産者がゲストティーチャーとして協力し、食に関する授業も行った。

- 三股小（11/26）



## 9 食に関する授業

「おやつを食べ方を考えよう」などの食に関する授業を、全ての小学校の全ての学級において、栄養教諭と学級担任とのTTの形態で実施した。



## テーマ1～3に共通する具体的計画

### ○ 県食育推進検討委員会視察研修

長野県駒ヶ根市にて、11月17日（水）18日（木）に実施した。

- ・ 栄養教諭、学校栄養職員等5名が参加した。
- ・ 駒ヶ根市教育委員会の取組、駒ヶ根市立赤穂小学校の実践、赤穂学校給食センターの取組について研修した。

### ○ 三股町食育推進検討委員会視察研修

香川県綾川町にて、1月23日（日）24日（月）に実施した。

- ・ 栄養教諭、学校栄養職員等3名が参加した。
- ・ 綾川町立滝宮小学校の実践について研修した。

## 数字で変化のあった事項について

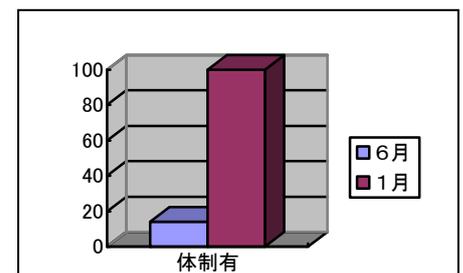
6月と1月に、三股町内の小中学校に対して実態調査を実施した結果、以下のような変容がみられた。

（ ※ 数値は、町内全小中学校数に対する該当する学校数の割合 ）

### ○ 地場産物活用のための体制の整備状況

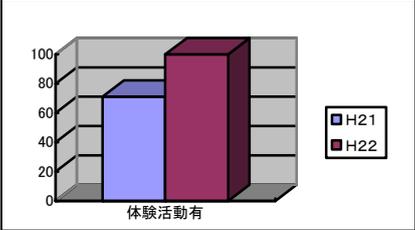
… 地域や関係団体等と学校とが連携し、学校給食や食に関する学習等への地場産物の活用促進を図るための組織の有無

【 6月 ～ 14% → 1月 ～ 100% 】

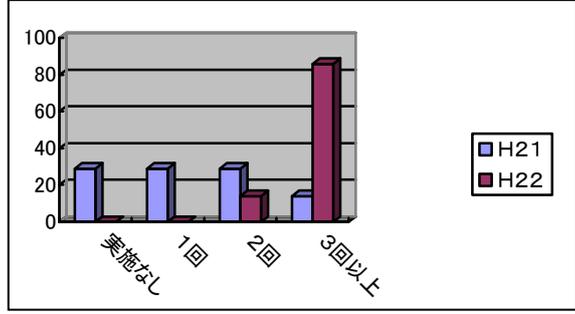


- 地場産物を活用した食づくり教室等の実施状況
  - … 料理教室や農作業体験、講演会等の体験活動の実施の有無  
(家庭科の授業における調理実習等は含まない。)

【 平成21年度 ～ 71% → 平成22年度 ～ 100% 】

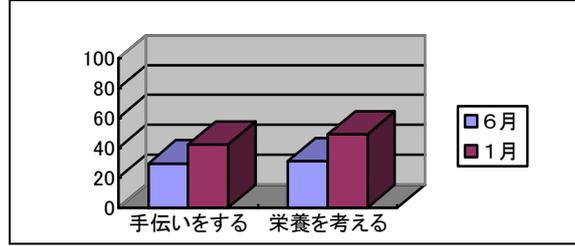


- <実施なし>
  - 平成21年度 ～ 29% → 平成22年度 ～ 0%
- <1回実施>
  - 平成21年度 ～ 29% → 平成22年度 ～ 0%
- <2回実施>
  - 平成21年度 ～ 29% → 平成22年度 ～ 14%
- <3回以上実施>
  - 平成21年度 ～ 14% → 平成22年度 ～ 86%



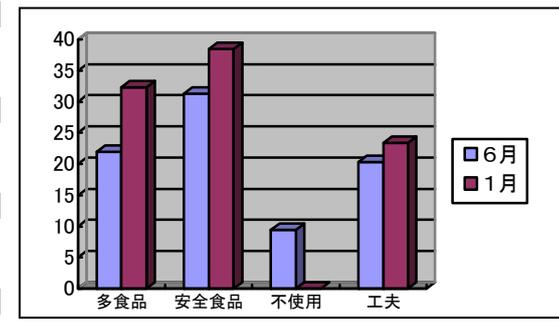
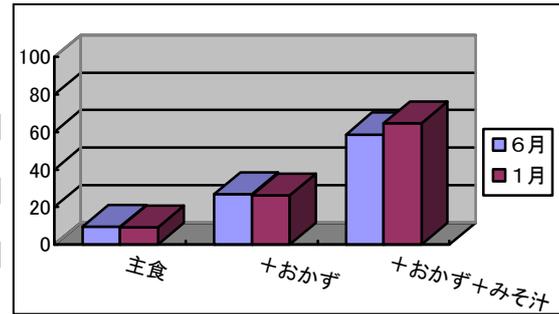
○ 児童の変容<抜粋>

- 家で食事の手伝いをする児童の割合  
(「する」「ときどきする」「しない」のうち「する」の割合)  
【 6月 ～ 29.7% → 1月 ～ 31.3% 】
- 食事をするとき、栄養のことを考えて食べる児童の割合  
【 6月 ～ 42.2% → 1月 ～ 49.2% 】



○ 保護者の変容<抜粋>

- 朝食のメニュー
  - ・ 「主食だけ」  
【 6月 ～ 9.5% → 1月 ～ 9.2% 】
  - ・ 「主食とおかずだけ」  
【 6月 ～ 27.0% → 1月 ～ 26.2% 】
  - ・ 「主食とみそ汁とおかず」  
【 6月 ～ 58.7% → 1月 ～ 64.6% 】
- 「できるだけ多くの食品を使用すること」に努めながら食事を作る保護者の割合  
【 6月 ～ 21.9% → 1月 ～ 32.3% 】
- 「安全な食品を使用すること」に努めながら食事を作る保護者の割合  
【 6月 ～ 31.3% → 1月 ～ 38.5% 】
- 家族の嫌いな食品を「作っても食べないので使用しない」とする保護者の割合  
【 6月 ～ 9.4% → 1月 ～ 0.0% 】
- 家族の嫌いな食品を「食べてもらえるよう調理の工夫をしている」とする保護者の割合  
【 6月 ～ 20.3% → 1月 ～ 23.4% 】



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

本年度、宮崎県は、口蹄疫の発生、高病原性鳥インフルエンザの発生、新燃岳の噴火と災害等が相次いだ。農業が盛んで新燃岳の麓に位置する三股町には、危機管理や児童生徒の安全・健康及び学校給食に関する対応等々、様々な影響が直接及ぶこととなった。

このような状況下ではあったが、どうにか体制を整え、計画を立案し、少人数での打合せや個別の連絡調整を頻繁に行うなど、方法を工夫しながら事業を推進し、結果的には、児童生徒、保護者、地域が喜ぶ多くの取組を実施することができた。

以下にその概要を示す。

ア テーマ1「学校給食への地場産物活用を核とした食育推進体制づくり」について

- ・ 事業推進地域（三股町）において、町内全ての学校関係者及び行政関係者、地域の関係機関・団体等による食育推進検討委員会を設置し、地域の人材と連携した取組を推進したことによって、食に関する指導や学校給食に地場産物を活用するうえで有効なネットワークを構築することができた。
- ・ 食育推進検討委員会を核としたネットワークの構築により、種々取組に、食生活改善推進員や生産者等を積極的に活用することができた。
- ・ 食育推進検討委員会で、食育に関する基本的な考え方や具体的な実践事項等について共通理解したことによって、町内全ての小中学校で共通した取組を行うことができ、併せて、町を挙げて食育に取り組む気運が高まった。
- ・ 地場産物活用促進のための組織の設置状況や地場産物を活用した体験活動の実施状況等について調査を行ったことによって、実態を踏まえ、目標をもって取組を進めることができた。
- ・ 「弁当の日」の提唱者御本人を招いての講演会の実施により、町内全ての小中学校で「弁当の日」を実施することができた。
- ・ 県教育委員会が実践に参画したことによって、事業推進地域において効果のあった取組を、広く他地域に発信することができた。

イ テーマ2「地場産物を活用した食づくり教室の開催、学校及び地域における食育の推進」について

- ・ 地場産物や学校給食を活用した計画的な授業実践及び多様な体験活動等を実施したことが、児童生徒一人一人にとって、食に対する関心や感謝の心もち、実践に向けた意欲や技能を高めるための契機となった。
- ・ 講演や事業経過報告の機会を設けたことによって、三股町における食育に関する考え方や実践事項について地域ぐるみで共通理解することができ、自ら食に目を向け、食習慣の改善に取り組もうとする気運が高まった。
- ・ 食に関する指導に地場産物や地域の人材を積極的に活用したことによって、以後の実践に有効活用することのできる人脈ができた。
- ・ 地場産物や地域人材を活用し、学校と家庭・地域が一体となって取り組んだことによって、児童や保護者の意識や行動に、様々な変容がみられた。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

ア テーマ1「学校給食への地場産物活用を核とした食育推進体制づくり」について

- ・ 本事業によって構築することができた組織やネットワークを、次年度以降も有機的に機能させることによって、維持・継続に努めたい。
- ・ 地場産物の学校給食への活用について十分な検討が行えなかったので、今後、食材の種類、数量、価格、規格等について、関係各所との協議・検討に努めていきたい。

イ テーマ2「地場産物を活用した食づくり教室の開催、学校及び地域における食育の推進」について

- ・ 次年度以降は、十分な予算の保障がない中での実践となるので、本年度の事業の成果や課題を踏まえ、継続して実施する事項とそうでないものを吟味し、取組を焦点化する必要がある。
- ・ 『「弁当の日」の取組』『郷土料理教室』『食に関する授業』等の有効な実践については、次年度以降も、地域の素材や人材を最大限に活用し、内容を充実させながら、何とか継続したい。
- ・ どの取組も効果的かつ魅力あるもので、三股町のみならず他地域の学校においても参考になるものと思われるので、県内一円に広く成果を発信できるよう、更なる手立てを講じたい。